

政治分野における男女共同参画

～議会に女性が参画することでより暮らしやすい社会へ～

平成30年5月「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が施行されました。この法律は、衆議院、参議院及び地方議員の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指すことなどを基本原則としています。これを踏まえて、小山市の女性市議会議員の方々に、令和2年2月政治参画アンケートを行いました。その結果は次のとおりです。

Q1 立候補の理由は？

- ① 議員となり、課題を解決したい(66.8%)、② 政党や所属団体、地域からの要請(16.7%)
- ③ 地方議会に女性の声を反映させるため(16.7%)

Q2 議員として現在特に力を入れて取り組んでいる分野は？

- ① 介護・福祉(29.4%)、② 健康・医療(23.5%)、③ 出産・子育て(17.6%)、④ 防災(11.4%)
- ⑤ 教育・文化・スポーツ(5.9%)、⑥ 男女平等(5.9%)、⑦ 人権(5.9%)

Q3 議員活動を行う上で最も課題となるものは？

- ① 専門性を高めたり見聞を広めたりするための時間がない(50.0%)
- ② 議員活動と家庭生活(子育てや介護)との両立が難しい(50.0%)

Q4 女性地方議員が少ない理由は？

- ① 立候補に必要な資金を調達する負担が大きい(24.8%)
- ② 研修や勉強会等の女性候補を育成するための機会がない(18.8%)
- ③ 家族や周囲の理解を得づらい(18.8%)
- ④ 政治は男性が行うものという固定的な考えが強い(18.8%)
- ⑤ 議員活動と家庭生活(子育てや介護)との両立が難しい(18.8%)

Q5 地方議会への女性の参画促進には、どのようなことをすれば？

- ① 女性候補者育成のための研修や勉強会(33.3%)
- ② 女性議員のロールモデル情報を発信するためのシンポジウム等イベントの開催(33.3%)
- ③ 議会報告会などでの女性の政治参画に関する情報発信(25.0%)
- ④ ウェブページ等の媒体を通じた女性地方議員の活動等の発信(8.4%)

～ちょっと一考～

「読解力低下」

昨年12月に公表された国際学習到達度調査(PISA)で、参加した79の国と地域の中で日本は8位から15位に順位を下げ、日本の高校生の読解力低下が浮き彫りになりました。文部科学省によれば、記述式の問題を苦手に行っていることが要因のようです。本や新聞などをよく読む生徒のほうが平均点は高く、読書量の減少も影響しているようですね。

表紙のこたえ

世界では2億5000万人の児童が15歳未満で結婚を強いられています。この「児童婚」と言われる結婚は、人権侵害と言うだけでなく、成長や発達にも大きな影響を及ぼします。また、出産による妊婦死亡のリスクも高くなります。

慣習や経済的理由からよりも、まずは健康そして教育を受けることを第一に考える社会を望みます。

ドメスティック・バイオレンス

配偶者間や親しい間柄にある人からの暴力(通称:DV)

心あたりはありませんか？

■身体的な暴力

物をなげつける、なぐる、足でける

■精神的な暴力

「誰のおかげで生活できるんだ」など大声で怒鳴る、生活費を入れない、仕事につかせない、友人とのつきあいを制限する

■性的暴力

性的関係の強要、避妊に協力しない

1人で悩んでいませんか？

■相談窓口

小山市配偶者暴力相談支援センター

受付時間：平日9時から17時

連絡先：0285-22-9602

- とちぎ男女共同参画課センター相談ルーム ☎028-665-8720
- 小山警察署 ☎0285-31-0110
- 栃木県警察本部県民相談室 ☎028-627-9110
- ウイメンズハウスとちぎ(民間) ☎028-621-9993
- サバイバルネット・ライフ(民間) ☎0285-24-5192